

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	10 月	10 日	記入者	仲谷裕巳
調査者名	春日	仲谷	西田	安川	

文化財名	奈良の瓦作り用具				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input checked="" type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1997年(平成9年)3月21日				
所在地	大和郡山市矢田町545 奈良県立民俗博物館				
所有者 管理者	奈良県(奈良県立民俗博物館保管):平成26年に奈良市の(株)瓦宇工業所より寄贈				
員数	1802点				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	なし				
公開	一部を展示公開				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足				
当面の課題	瓦製造所の倒産により平成26年に寄贈を受け、県立民俗博物館で保管中である。収蔵場所の不足により、搬入したまま棚やダンボール箱に入れて積み上げている状況である。寄贈時点の一覧データは完備しているが、用具の整理は出来ていない。				
今後の課題	保管場所は博物館2階の元執務室であり、防火対策や防虫対策、断熱材等はない。寄贈物件の整理を行い、修復や防虫・防腐処理を行い収蔵設備が整った施設に収容する必要がある。				
その他 (由緒など)	わが国への瓦の伝来は、崇峻元年(588)に百済から瓦博士が渡来して技術を伝え、飛鳥寺を建てたのが始めといわれる。伝統的な工程に応じて使用されてきた用具類が土取、土打ち、地瓦作り、役物作り、干しもの、窯焚き、瓦下絵、道具作りなどに大別され、網羅的・体系的に収集整理されている。				
コメント	会社の倒産による寄贈品を受け入れたが、博物館の収蔵庫はほぼ飽和状態であるので、やむなく一般の部屋で保管中であるとのこと。年々、このような寄贈品が増加し対応に苦慮しているとのことであった。防虫や防腐の処理、修復などは大学の文化財関連学科の教材として依頼しているとのこと。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	10 月	10 日	記入者	仲谷裕巳
調査者名	春日	仲谷	西田	安川	

文化財名	奈良の瓦作り用具
------	----------

瓦作り用具一般展示	瓦作り用具(展示物)
-----------	------------



保管状況(ダンボール箱)	保管状況(収納棚)
--------------	-----------



保管状況(床置き)	寄贈の一覧データ
-----------	----------

